

小田原市青少年問題協議会 会議録

- 1 日 時 平成23年11月8日(火) 午前10時30分～12時00分
- 2 場 所 小田原市役所 議会全員協議会室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 加藤憲一(会長)、橋本輝夫(副会長)、荒木美那子、大場得信、小澤治枝、加藤哲三、神永四郎、川瀬貴美子、木村貞雄、信濃和江、高瀬敏明、高橋一夫、高橋雅美、田中誠、中津川悦子、中元春一、古沢史美、楊隆子
 - (2) 事務局 川久保子ども青少年部長、篠原子ども青少年部副部長、福野青少年育成担当課長、尾沢育成係長、浅野相談係長、岩村主事、橋本主事
- 4 議 題
 - (1) 協議事項
 - ア 小田原市孝養賞受賞者の選考について【非公開】
 - イ 小田原市善行青少年及び優良青少年団体並びに青少年育成功労者等表彰における被表彰者の選考について【非公開】
 - ウ 青少年と育成者のつどいについて
 - (2) 報告事項
 - ア 平成23年度上半期青少年関係事業結果報告
 - (3) その他

5 会議の概要

(1)協議事項 ウ 青少年と育成者のつどいについて

事務局

[資料4により説明]

青少年と育成者のつどいは、青少年と育成者がお互いを知るとともに、市民の理解を深める目的で毎年開催している。

今年度は、12月3日(土)に、川東タウンセンターマロニエで開催予定。小田原市と本協議会が主催し、小田原市青少年育成推進員協議会が主管する。2部構成で、1部が中学生の主張発表、2部が本日選考していただいた善行青少年等の表彰式となっている。

会長と副会長にご挨拶をいただくほか、開会のことばと閉会のことばを、本協議会の委員が行っており、昨年度の例では、開会のことばを高橋(一)委員、閉会のことばを高瀬委員にお願いした。

今年度については、どなたにお願いするか、ご意見をいただきたい。

議 長

青少年と育成者のつどいについて、内容の確認、ご意見、ご質問など

があればお願いしたい。

委員 善行少年の二人の感想など話を聞く場面があるか。

事務局 例年は、被表彰者が発言する時間をとっていないが、ご意見を参考に、そのような機会が設けられるか、主管団体とも協議したい。

委員 開会のことばと閉会のことばは、昨年のおり、高橋(一)委員と高瀬委員にお願いしてはどうか。

議長 善行少年からお話いただく機会を設けるかは事務局で検討すること、開会のことばは高橋一夫委員、閉会のことばは高瀬委員ということでお願いできるか。

(承認)

※ 当日は、高瀬委員が、急遽欠席となり、正副会長と調整し寺澤委員に閉会のことばをお願いした。

(2)報告事項 ア 平成23年度上半期青少年関係事業結果報告

事務局 資料5「平成23年度上半期青少年関係事業結果報告」を使い、主な事業として、以下の事業概要及び事業経過を説明した。

青少年団体育成事業 / 子どもの居場所づくり推進事業
 / 青少年環境浄化推進事業 / 青少年指導者育成事業 /
 / 体験・交流学习事業 / 青少年交流施設環境整備事業/
 青少年相談体制充実事業 /

議長 事業結果に対する、ご意見やご質問などあればお願いしたい。

議長 補足させていただくと、青少年事業で力点をおいているのは、小田原の地域に根ざした人的資源、文化的資源を活かした事業でなければ、単発のイベントになってしまうということだ。

地域の方々にご協力いただき、大きな負担にはならないような形で続けていけるようにしていきたいが、なかなか時間がかかるのが現状。

体験・交流学习事業についても、理想としている一定の学年の子どもがすべて参加できるようには、まだなっていない。

学校に負担をかけるのではなく、地域の方々と連携していきたい。本協議会の委員の皆様には、小田原ならではの子どもの育ちの場をつくることにご協力いただきたく、改めてお願いさせていただく。

(3)その他 青少年問題協議会の勉強会について

- 委員 皆様にはご出席いただき、活発な議論をしていただいで感謝している。よい意見がたくさん出たので、有意義な勉強会になった。今回は、青少年に問題があるとするならば、どのような環境がその原因となっているか、委員の皆様の現状認識を確認し合い、今後につなげるということにさせていただいた。委員の皆様には、自己紹介を兼ねて自分の子どもの頃やご自身の子育ての経験を踏まえて、今の青少年の問題についてお話をさせていただいた。お話の中で、昔と比べて何が失われたのか、青少年の健全育成によいものは何か、いま起きている問題は何かに意見が集約されてきた。今後、出てきたご意見を整理して、私達に具体的に何ができるか事務局とも調整して考えていきたい。
- 議長 今後の勉強会の方向性について、感想やご意見などをお願いしたい。
- 委員 一人ひとりの素晴らしいお話が出てきたが、では、小田原市をどうしようというところまで至らなかったのが、次回はもう一歩具体的に進めていけたらというのが自分の感想だ。
- 議長 具体的に進めていくというのが大事だ。去年は、2回開催し、2回目は論点を3つに絞って実施していた。
- 委員 これから、どのような子どもを育てていくのか、そのために何が必要なのか、これは私達だけが認識していても足りない。地域の中でどう周知していくかも課題。地域の中で、育成会や子ども会、PTAなどで話し合うのも一つの方法だと考える。
- 委員 勉強会の後、地域で失われてきてしまったものを、現在にどう取り戻せるかを自分なりに考えた。そして、子ども達が集まって遊んだり、勉強できたりする「場」があ

ればよいと思った。今日の事業報告で、子どもの居場所づくり推進事業を知り、このような取り組みが広がっていくように自分の地域（大窪）でも働きかけをしていきたい。

議 長 地域全体で子ども達を育てようという事業、いわゆるスクールコミュニティ事業は、現在は早川と久野をモデル地区として実施しているが、実は名前や切り口は違うけれども、それぞれの地区での取り組みがある。今後、そういった取り組みを元に少しずつエリアを拡大していくよう働きかけていく。早川や久野も、深堀りできないかと考えている。大窪もよい土壌を持っている地域なのでよろしくお願ひしたい。

委 員 富士見小学校での富士見フェスティバル、酒匂小学校の酒匂フェスティバルに参加したところ、多数の人・団体が参加していて驚いた。地域に応援する方が多数いて、できる時にできることをやっていくということが、とてもよいことだと思った。

議 長 酒匂・小八幡の地域も熱心にやってくれていて感謝している。富士見小学校区での取り組みも後押ししていきたい。

委 員 どんな時代も、子どもも大人も問題があったが、今の時代の特徴は、行政も地域も、学校も家庭も、少しずつ子どもに手を掛けなくなってきているということだ。
他人のせいにしていたら、いつまでも解決することはできない。この協議会は、子どもの問題を取り扱う主体となるメンバーが揃っている。条例を作ったりなど、私たち自身が動くことはできないが、市に働きかけたり、家庭や地域を動かすことはできる。
私の思いは、自分が子どもに関わり始めた当初から変わっていない。小田原の子どもは、家庭や地域や学校が手を携えて育てていくしかないということだ。
この協議会から、市を動かしていくことができると思うので、今後も皆さんの力をお貸しいただきたい。

議 長 学校側からはどうか。

委 員 勉強会のように、地域の方のお話を聞く機会は多くはないので、学校を見直すきっかけとなりとてもよかった。地域の教育力について言えば、行政が、子どもの居場所づくりのような形で、地域の絆を作っ

	<p>ていただいているのはありがたい。家庭の教育力について言えば、学校が家庭に入り込んでいけないところがあるので、どんな関わり方をしていけるのかが難しい課題だ。</p> <p>不登校については、ケース会議で取り組もうとしている状況だ。</p>
委員	<p>善行青少年等表彰の議題で、ホームレス支援に取り組む中学生の話があったが、小学校では、小学校1年生から6年生まで成長する中で、子どもは、家族から、友達、そして地域と、段々に目が向くようになる。勉強会に参加して、自分が地域に何ができるかを探すような子どもを育てられたらと思った。</p>
議長	<p>勉強会について、皆さんに共通しているのは、根本的な原因に立ち向かっていける具体的な行動につなげていきたいということだ。テーマや時期は橋本副会長にリードして進めていただきたいので、次回も、是非、ご参加いただきたい。私も加わって議論できればと思う。</p>

(3)その他 意見交換

議長	<p>残りの時間で、委員の皆様で共有したい情報があればお願いしたい。</p>
委員	<p>昨年度は、協議会の委員で、小田原少年院の見学をして、その後の講演会につながった。</p> <p>今年度は、報徳更生寮の見学をしたいと考えている。報更生正寮は、刑期を終えた方が仕事を探しながら暮らしている施設で、小田原少年院の隣にある。</p> <p>今後、見学の話を進めていくので、是非、ご参加いただきたい。</p>
委員	<p>自分は、高校生と関わることもあるが、タトゥー・刺青を入れている生徒が多い。</p>
委員	<p>自分は、保護司をしているが、非行少年はほとんどが刺青を入れている。</p>
委員	<p>県の条例では、未成年に刺青を彫ってはいけないとなっているが、おそらく年齢を偽っているのだろう。刺青を消すにはお金がかかるのにどうするのかと心配している。</p>

議 長

最後に、市から「子どもにやさしいまちづくり講座」を紹介したい。子どもが育っていくということは、教育や子育てという切り口から論じられることが多かったが、実は町のあり様も影響している。昔の子どもには自然や空き地があった。そこで、プレイパークや子どものまちづくり参画など、子どもが育つ町のあり様を考えるためにこういった講座を企画したので、ご都合がつけば、是非、ご参加いただきたい。